

メバチ 大西洋

Bigeye Tuna, *Thunnus obesus*

管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

最近一年間の動き

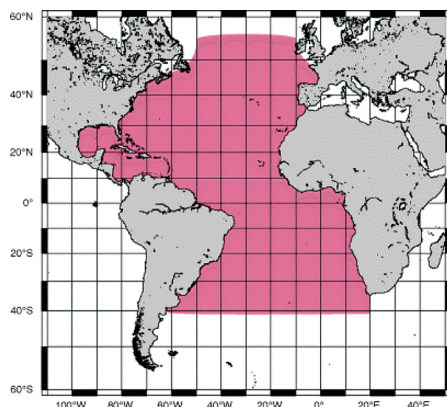
2011 年の総漁獲量は 7.9 万トン（予備集計）で前年の 104% であった。資源評価は 2010 年に行われ、MSY は 9.2（7.8～10.1）万トンと推定され、2009 年当初の資源量は MSY レベルとほぼ同じ（ $B_{2009}/B_{MSY}=1.01$ （0.72～1.34））と見られる。資源評価時の最近年（2009 年）の漁獲圧は、MSY レベルよりやや小さい（ $F_{2009}/F_{MSY}=0.95$ （0.65～1.55））と推定された。資源管理措置は、将来にわたる持続的利用を確実にするため、TAC（8.5 万トン）が設定され、主要漁業国には漁獲枠、漁船隻数枠が設定された。メバチ・キハダの幼魚が多く生育するギニア湾における浮き魚礁（FADs を含む）を利用するまき網の禁漁期、禁漁区域の拡大が導入された。

生物学的特性

- 寿命：10～15 歳
- 成熟開始年齢：3 歳（120 cm で大部分が成熟）
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24℃ 以上の海域
- 索餌期・索餌場：特定の海域・時期の報告はない
- 食性：魚類・甲殻類・頭足類、他のまぐろ類よりハダカイワシ・ムネエソ等の中深層性魚類が多い
- 捕食者：大型のまぐろ・かじき類、さめ類、鯨類

利用・用途

刺身、すし、缶詰、魚肉ソーセージの原料など



大西洋におけるメバチの分布

漁業の特徴

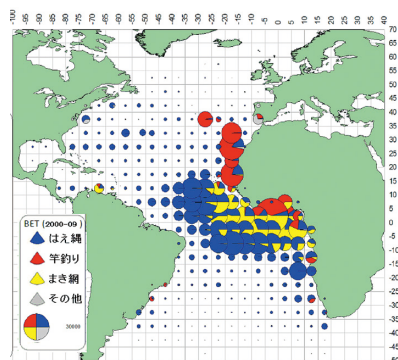
本種は主にはえ縄、竿釣り、まき網によって漁獲されてきた。主として成魚を漁獲するはえ縄が漁獲の大部分を占めてきたが、大西洋は他の大洋と異なり、従来からまき網や竿釣りによる漁獲が比較的多い。まき網が FADs 操業を開始した 1991 年以降、小型魚漁獲が増加した。

漁業資源の動向

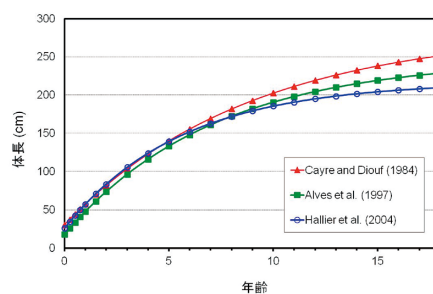
総漁獲量は 1994 年に過去最高の 13 万トンに達したが、その後徐々に減少して、2005 年以降は 7～8 万トンで推移し、2011 年の総漁獲量は 7.9 万トン（予備集計）で前年の 104% であった。2011 年現在、はえ縄の漁獲は全体の半数を割り込み（48 %）、まき網の漁獲（35%）が増加傾向にある。メバチの平均体重は、はえ縄で 45～50 kg、竿釣りでは 20～30 kg、まき網で 3～4 kg である。

資源状態

MSY は 9.2（7.8～10.1）万トンと推定され、2009 年当初の資源量は MSY レベルとほぼ同じ（ $B_{2009}/B_{MSY}=1.01$ （0.72～1.34））と見られる。資源評価時の最近年（2009 年）の漁獲圧は、MSY レベルよりやや小さい（ $F_{2009}/F_{MSY}=0.95$ （0.65～1.55））と推定された。また、8.5 万トンの一定漁獲量において、2015 年（資源評価から 5 年目）に資源量が MSY レベル以上、かつ漁獲死亡が MSY レベル以下になる確率はおおよそ 60% であることが示された。



主要なまぐろ漁業による大西洋におけるメバチの漁獲分布
(2000～2009 年)



推定成長（標識放流；Cayré and Diouf 1984、脊椎骨；Alves *et al.* 1998、耳石；Hallier *et al.* 2005）

管理方策

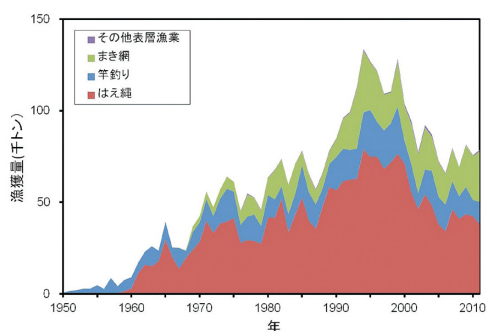
2012 年から 2015 年までのメバチの資源管理方策は Recommendation TRO 11-01 が適用される。漁獲能力制限として、主要漁業国（年間 2,100 トン以上のメバチ漁獲がある国）のはえ縄及びまき網における全長 20 m 以上の漁船における年間操業隻数が決定された。メバチの総漁獲可能量（TAC）について、総量は現行枠（8.5 万トン）が維持され、各国の漁獲枠が設定された。従来のギニア湾の一部海域における 1 か月間の表層漁業の禁漁に代わり、メバチ・キハダの幼魚が多く生育するギニア湾における浮き魚礁（FADs を含む）を利用するまき網の禁漁期、禁漁区域を拡大（アフリカ大陸海岸線～10° S、5° W～5° E、1 月 1 日～2 月 28 日）しての実施が決定された。まき網や竿釣り船にはオブザーバーの乗船が義務づけられる。2002 年 4 月から、統計証明制度（輸入には漁業国の証明書が必要）が開始されている。

資源評価まとめ

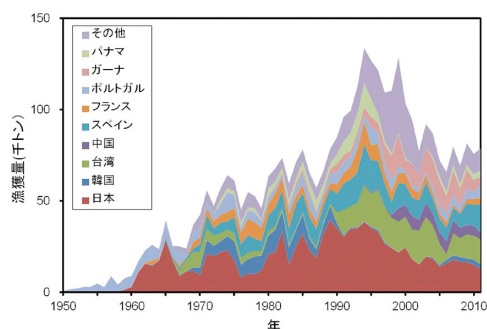
- 資源量は MSY 水準付近
- 漁獲圧は MSY を達成する漁獲圧付近
- 過剰漁獲状態は脱したかに見えるが、主要漁業のはえ縄の CPUE は依然として減少が続き、まき網の漁獲量も再び増加がみられるので、注意深く資源動向を見守ることが必要

資源管理方策まとめ

- 主要国の漁獲枠、漁船隻数枠の設定
- ギニア湾（アフリカ大陸～10° S、5° W～5° E）、1 月 1 日～2 月 28 日の浮き魚礁（FADs を含む）を利用するまき網の禁漁
- 統計証明制度
- オブザーバー乗船（まき網、竿釣り）



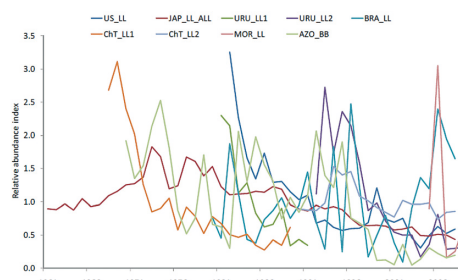
本資源の漁法別漁獲量



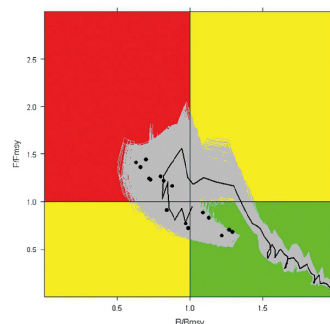
本資源の国別漁獲量

メバチ（大西洋）の資源の現況（要約表）

資源水準	低 位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	6.9 ～ 8.2 万トン 平均 7.7 万トン (2007 ～ 2011 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	1.3 ～ 1.8 万トン 平均: 1.6 万トン (2007 ～ 2011 年)



各種解析に用いた資源量指数及びそれらを結合した資源量指数（ICCAT 2011）
 AZO_BB：アゾレス諸島の竿釣り、BRA_LL：ブラジルのはえ縄、ChT_LL2：台湾のはえ縄 1968-1989、ChT_LL2：台湾のはえ縄 1990-2008、JAP_LL：日本のはえ縄、MOR_LL：モロッコのはえ縄、URU_LL1：ウルグアイのはえ縄 1981-1991、UR_LL2：ウルグアイのはえ縄 1992-2008、US_LL：米国のはえ縄



B/B_{MSY} と F/F_{MSY} の経年的プロット（ICCAT 2011）
 プロット周囲の灰色の領域は 80% の信頼区間を示す。



将来の一定漁獲量（図の縦軸：TAC）を仮定した場合の B/B_{MSY} が 1 以上、F/F_{MSY} が 1 以下となる確率（赤：<50%、黄：50-75% 及び緑：>75%）の経年的プロット（ICCAT 2011）実線は確率 60% の等高線。